# 「ゲノム/遺伝子情報ビジネスの現状と将来展望」を販売開始

報道関係者各位

平成23年11月28日 株式会社クロス・マーケティング (東証マザーズ 3629)

「ゲノム/遺伝子情報ビジネスの現状と将来展望」を販売開始

~製薬・食品・畜産など産業におけるデータベース利用の動向~

# ■■ 要約 ■■

マーケティングリサーチを行う株式会社クロス・マーケティング(代表取締役 社長 五十嵐幹 東京都中央区)は、エレクトロニクス・ITと医薬・医療・バ イオ分野を中心に様々な調査を行っている株式会社シード・プランニング(代 表取締役 梅田佳夫 東京都台東区)が提供する「ゲノム/遺伝子情報ビジネ スの現状と将来展望」を販売開始しました。

詳細URL: http://www.cross-shop.jp/products/detail.php?product id=702

## ■■ 商品概要 ■■

◇ゲノム、遺伝子、タンパク質などライフサイエンスデータベースの現状と 課題

- ◇製薬企業、食品、環境、農業分野におけるゲノム情報の利活用の現状
- ◇塩基配列、代謝・パスウェイ、疾患関連データベースリスト収録

ポストゲノム時代に入り、ライフサイエンス分野では生命情報ビッグバンとも 呼ぶべき大量データが産出される状況となっています。

それに伴ってWeb上に公開される分子生物学関連のデータベース数もこの10年で 爆発的増加の一途をたどっています。

我が国においても、これまでゲノム解析プロジェクトやタンパク3000プロジェクトなど大型のデータ蓄積型の研究が多数実施されてきました。これらの成果はデータベースとして個別には整備・一般公開されてきたものの、統合的に公開する体制や恒久的な維持・管理を支援する制度づくりを重視してこなかったため、散逸・逸失してしまったものも多くあります。

このような状況は、我が国のライフサイエンス分野における研究基盤の損失に もつながりかねません。 現在、内閣府主導のもと、我が国の研究開発を支える重要基盤として、ライフサイエンス統合データベースを構築する動きが本格的にスタートしています。将来的には省庁の垣根を越えて、国内のデータベースを一元化し、アカデミア、産業界の研究開発に還元することを目指すものです。

ゲノム解析技術の進展により、創薬のみならず、食品、農業、環境分野では ゲノム・遺伝子情報を活用する動きは盛んになっています。 今後は過去に蓄積されたデータベースの利活用が研究開発における重要な鍵の 一つになってくると思われます。

本書では、国が推進するライフサイエンス統合データベースの現状・課題や、 製薬企業をはじめとした産業界におけるデータベース利用の展開などについて 調査を行いました。

## ■■ 調査概要 ■■

#### 【調査方法】

公開情報検索、ヒアリング(大学・研究機関、製薬企業、食品企業など)

#### 【個票掲載】

大学、研究機関: 科学技術振興機構、理化学研究所、産業技術総合研究所、 EBI、NCBIなど

#### ■■ 資料目次 ■■

#### 総括

- 1. 本書におけるデータベースの定義
- 2. 国内のデータベースサービス市場
- 1) データベースサービス市場
- 2) 商用データベース数
- 3. ライフサイエンスデータベースのプレーヤー
- 4. 国が推進するライフサイエンス統合データベースの現状と展開
- 5. ライフサイエンスデータベースの一般的な構造と分野
- 6. 産業界でのライフサイエンス分野のデータベースの活用事例

第1章 ライフサイエンスデータベースを取り巻く現状

- 1-1. ライフサイエンスデータベースの経緯
- 1-2. ライフサイエンスデータベースの現状と課題
- 1) ポストゲノム時代の大量データ化
- 2) 公共データベースの課題
- 1-3. 統合データベース整備の動向
- 1) JST統合データベースプロジェクト
- 2)科学技術基本計画
- 3) 公的データベースの産業利用の促進
- 4) 省庁横断的なデータベース統合にあたっての課題
- 1-4. 産業分野におけるデータベース活用の重要性

- 1) data driven science
- 2) 産業分野におけるデータベースの有用性
- 1-5. 産業におけるゲノム情報活用の動向
- 1) 製薬企業の展開
- 2) 食品・健康関連企業の展開
- 3) 産業・畜産産業の動向
- 4) その他の分野の動向
- 1-6. 次世代ゲノム医療のためのトランスレーショナル研究の事例
- 1) 臨床データの公的利用を目指したデータベースi2b2
- 2) 臨床データ、環境情報を関連づけたデータベースiCOD
- 3) 肝炎ウイルスゲノムと臨床情報の統合データベース構築研究
- 1-7 ポストゲノム時代におけるシステムバイオロジーの展開
- 1) 米国におけるシステムバイオロジーの展開
- 2) 日本におけるシステムバイオロジーの動向
- 1-8 製薬企業におけるシステムバイオロジーの活用展開
- 1) FCSB (Future Challenges for Systems Biology)
- 2) ICSB 2010 (システムバイオロジー国際会議)
- 1-9 データベースの利用現状と課題
- 1) 統合データベースの利用における課題
- 2) 臨床情報データベースの研究利用における課題
- 1-10 データベース研究開発の動向

独立行政法人 農業生物資源研究所/東京医科歯科大学 難治疾患研究所/ 独立行政法人 医薬基盤研究所/理化学研究所 オミックス基盤研究領域 1-11 データベースに関する参入企業の状況

1-11-1 パッケージソフト提供企業

アクセルリス/アジレントテクノロジーズ/CTCラボラトリーシステムズ/インフォコム/化学情報協会 /トムソン・ロイター/富士通九州システムズ

1-11-2 システム・ソリューション企業の参入状況

三菱スペース・ソフトウエア/サイエンス・テクノロジー・システムズ/ビッツ/三井情報/日立ソリューションズ/日立公共システムエンジニアリング/アクセルリス/NEC

1-12 データベースに関する学会・コンソーシアムの取り組み

国際塩基配列データベース(INSD)/バイオ産業情報化コンソーシアム

(JBIC) /日本PGxデータサイエンスコンソーシアム(JPDSC) /

SAGE Bionetworks/国際がんゲノムコンソーシアム/1,000人ゲノムプロジェクト/ヒトプロテオーム機構(HUPO)/Worldwide Protein Data Bank (wwPDB) / Genome Reference Consortium

#### 第2章 データベース運用機関の個票

- (独)医薬基盤研究所/京都大学化学研究所 バイオインフォマティクスセンター/
- (独)産業技術総合研究所 バイオメディシナル情報研究センター/日本DNA データバンク (DDBJ) /
- (独)農業生物資源研究所/ライフサイエンス統合データベースセンター (DBCLS) /
- (独)理化学研究所 植物科学研究センター/European Bioinformatics Institute (EBI) /

## National Center for Biotechnology Information (NCBI)

## 第3章 データベース運用機関へのヒアリング調査

- 1. (独)産業技術総合研究所 バイオメディシナル情報研究センター
- 2. JST バイオサイエンスデータベースセンター (NBDC)
- 3. (独) 理化学研究所 生命情報基盤研究部門 (BASE)

## 第4章 データベース利用者へのヒアリング調査

## 第5章 省庁におけるデータベースプロジェクトの動向

- 5-1 内閣府
- 1) 新成長戦略
- 2) 医療イノベーション推進室
- 3) 科学技術基本計画
- 4) 東北メディカル・メガバンク構想
- 5-2 文部科学省
- 1) ライフサイエンス統合データベースセンター (DBCLS)
- 2) 革新的細胞解析研究プログラム(セルイノベーションプログラム)
- 3) 日本版診断群分類(DPC) データベースを用いた臨床疫学研究
- 5-3 科学技術振興機構 (JST)
- 5-4 経済産業省
- 1) ポータルサイトMEDALSの構築・運用
- 2) ライフサイエンスデータベースプロジェクト
- 5-5 農林水産省
- 1)農林水産生物ゲノム情報統合データベース
- 2) 画期的な農畜産物作出のためのゲノム情報データベースの整備
- 5-6 厚生労働省
- 1) レセプトオンライン化とナショナルデータベース
- 2) 日本のセンチネルプロジェクト

### 第6章 データベース利用の実際

- 6-1 データベース利用の実際
- 1) 公共データベースの実情
- 2) データベース検索用ポータルサイト
- 3) Nucleic Acids Research
- 6-2 データベースにおけるデータ分類
- 6-3 データベース検索ツール
- 1) ホモロジー検索
- 2) モチーフ検索
- 3) マルチプルアラインメント

### 第7章 データベースリスト

- 1. 核酸データベース
- 2. RNAデータベース
- 3. ゲノムデータベース
- 4. 遺伝子変異・疾患関連データベース
- 5. パスウェイデータベース
- 6. タンパク質データベース

## 7. 文献データベース

## ■■ 商品詳細 ■■

商 品 名:ゲノム/遺伝子情報ビジネスの現状と将来展望

発刊日:2011年10月14日

発 行:株式会社シード・プランニング 販 売:株式会社クロス・マーケティング

判 型:A4 / 190ページ

頒 価:

■製本版 99,750円 (本体価格95,000円、消費税4,750円)

※製本をお買い求めいただいたお客様には、別途CD-ROMも販売致します。

詳細はお問い合わせください。

※別途送料500円

詳細URL:http://www.cross-shop.jp/products/detail.php?product id=702

### 【お申し込み方法】

上記URLよりお申し込みください。

#### 【お支払い方法】

法人様・・銀行振込みの後払いとなります。

商品と同封、または別送にて請求書と納品書をお送りいたしますので、振込み 期日までに指定口座へお振込みください。

個人様・・銀行振込みの前払いとなります。

お申し込み後に請求書をお送りいたします。

ご入金が確認されましてから、商品を発送いたします。

#### ■■株式会社クロス・マーケティングについて■■

株式会社クロス・マーケティングは、国内150万人超の大規模モニターを軸に、 生活者の「生」の声を主にインターネットを活用して収集するマーケティング リサーチ会社です。

生活者の嗜好の多様化や、商品サイクルの短期化に対応するため、ネットリサーチの優位性である「スピード」「コスト」に加え、「品質」を最大限に重視したリサーチサービスを展開しています。

調査企画から設計、実査、集計・分析レポートまで、マーケティングリサーチ に関するあらゆるサービスをトータルにサポートいたします。

## ■■株式会社クロス・マーケティング会社概要■■

名称:株式会社クロス・マーケティング

本社所在地:東京都中央区銀座8丁目15番2号銀座COMビル6F

代表者:代表取締役社長 五十嵐 幹

設立:2003年4月

URL : http://www.cross-m.co.jp/

## ■■ 本件に関するお問い合わせ先 ■■

株式会社クロス・マーケティング

Cross Shop 販売窓口担当

Tel: 03-3549-1319 Fax: 03-5565-1555

Mail: cs-info@cross-m.co.jp

Facebook: http://www.facebook.com/pages/Cross-Shop/164004066984033

twitter:http://twitter.com/cross CS

Generated by ぷれりりプレスリリース

https://www.prerele.com